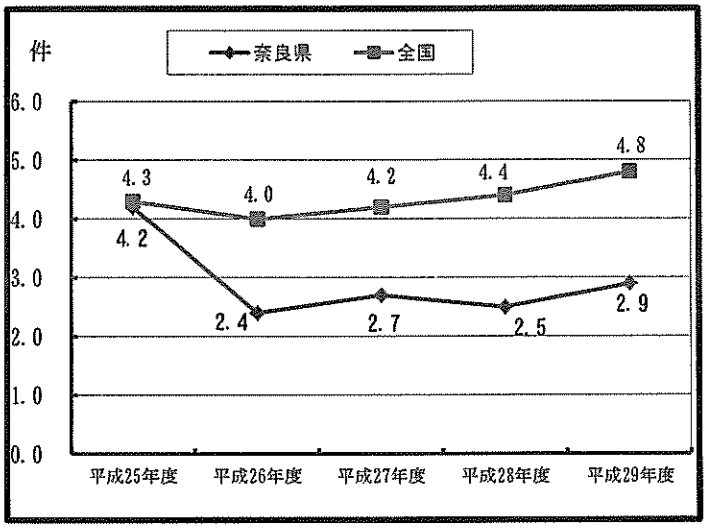
平成29年度
「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」
結果の概要

奈良県教育委員会

平成29年度　暴力行為の状況

1　全国との比較（国公私立小・中・高等学校合わせた1,000人当たりの発生件数）

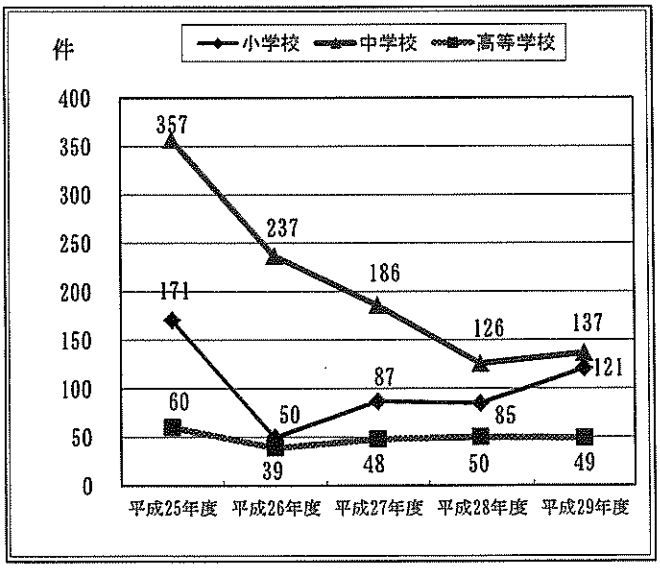
	奈良県	全　国
平成25年度	4.2	4.3
平成26年度	2.4	4.0
平成27年度	2.7	4.2
平成28年度	2.5	4.4
平成29年度	2.9	4.8



※　平成29年度の公立小・中・高等学校合わせた1,000人当たりの発生件数は、全国が5.1件、奈良県が2.5件であった。

2　暴力行為の発生件数の推移（奈良県の公立小・中・高等学校）

	小学校	中学校	高等学校	合　計
平成25年度	171	357	60	588
平成26年度	50	237	39	326
平成27年度	87	186	48	321
平成28年度	85	126	50	261
平成29年度	121	137	49	307



平成29年度 いじめの状況

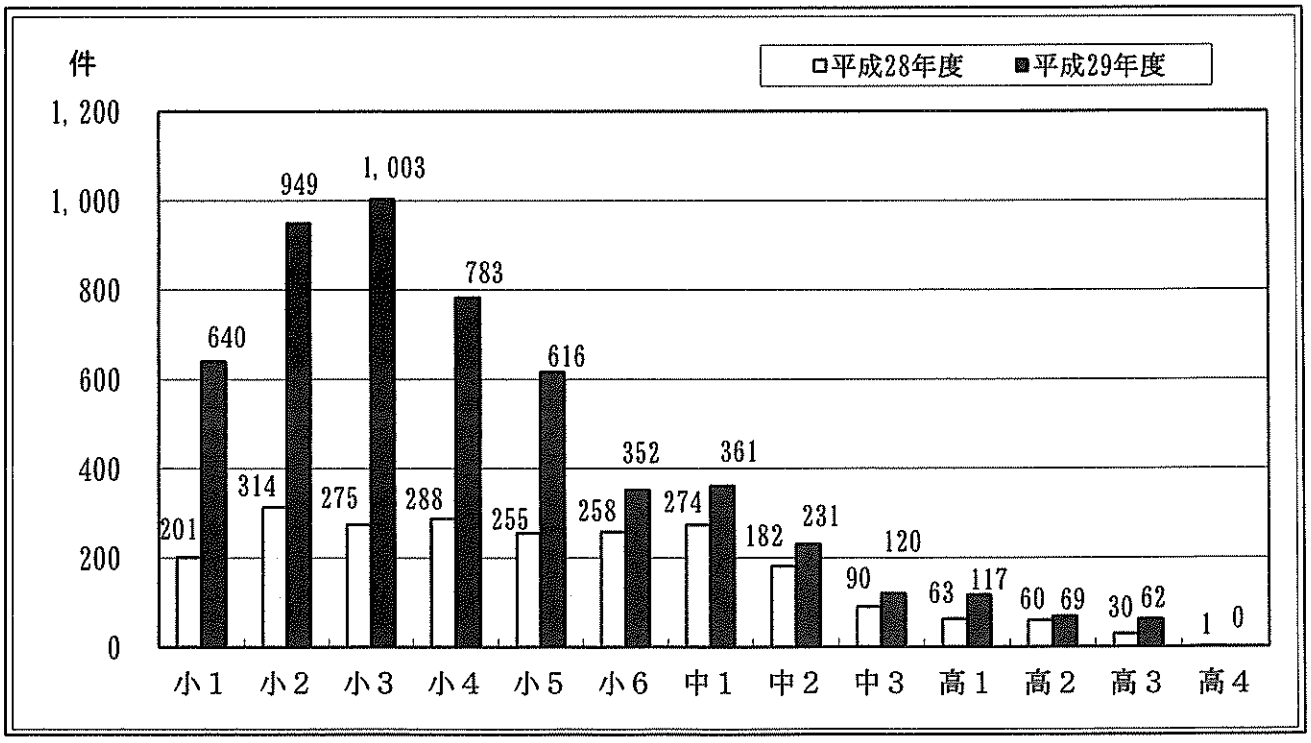
1　全国との比較（国公私立小・中・高・特別支援学校合わせた1,000人当たりの認知件数）

	奈良県	全国
平成25年度	8.2	13.4
平成26年度	8.8	13.7
平成27年度	27.3	16.5
平成28年度	16.3	23.8
平成29年度	37.5	30.9

2　いじめの認知件数（奈良県の国公私立小・中・高等学校）　（件）

	小学校	中学校	高等学校	合計
平成25年度	579	514	196	1,289
平成26年度	654	585	135	1,374
平成27年度	2,712	1,274	247	4,233
平成28年度	1,686	615	186	2,487
平成29年度	4,534	826	306	5,666

3　学年別いじめの認知件数（奈良県の公立小・中・高等学校）



4　いじめの態様（奈良県の公立小・中・高等学校）　（%）

区　　分	年度	小学校		中学校		高等学校	
		奈良県（公立）	全国（公立）	奈良県（公立）	全国（公立）	奈良県（公立）	全国（公立）
冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	H29	59.9	61.5	71.9	65.7	67.3	62.5
	H28	63.8	61.6	73.4	65.7	63.0	62.3
仲間はずれ、集団による無視をされる	H29	12.5	14.3	11.5	13.1	8.9	13.9
	H28	16.2	15.6	13.7	13.9	21.4	14.8
軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	H29	21.3	23.2	14.9	14.5	11.3	11.0
	H28	22.3	24.1	15.8	15.4	14.9	12.2
ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	H29	5.1	6.3	4.4	4.4	0.4	3.8
	H28	9.3	6.9	4.2	4.8	2.6	4.6
金品をたかられる	H29	1.0	1.1	0.7	1.1	0.8	2.4
	H28	1.6	1.5	1.3	1.2	1.9	2.7
金品を隠されたり、盗まれたり、壊されたり、捨てられたりする	H29	3.8	5.8	3.8	6.0	2.0	5.8
	H28	4.8	6.3	6.4	5.8	7.1	5.9
嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	H29	6.2	7.8	5.1	6.7	4.0	6.3
	H28	8.4	7.6	6.8	6.3	5.2	7.1
パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる	H29	0.3	1.1	8.3	7.8	15.3	18.1
	H28	0.9	1.1	7.0	7.8	18.8	17.4
その他	H29	8.7	4.1	9.6	3.6	1.2	4.8
	H28	6.6	4.6	7.5	3.5	8.4	4.6

※　構成比は、各区分における認知件数に対する割合《複数選択可》

5　いじめの解消状況（奈良県の公立小・中・高等学校）　（%）

区　　分	年度	小学校		中学校		高等学校	
		奈良県（公立）	全国（公立）	奈良県（公立）	全国（公立）	奈良県（公立）	全国（公立）
いじめが解消しているもの	H29	91.2	86.4	84.4	83.9	83.9	84.8
	H28	87.3	91.2	88.6	88.9	85.1	89.4
解消に向けて取組中	H29	8.6	13.5	14.7	15.8	16.1	13.6
	H28	11.3	8.6	9.9	10.7	14.3	8.8
その他	H29	0.2	0.2	0.8	0.3	0.0	1.6
	H28	1.4	0.2	1.5	0.4	0.6	1.8

※　構成比は、小数点以下第２位を四捨五入し、小数点以下第１位までとした。そのため、構成比で、合計が100%とならない場合もある。

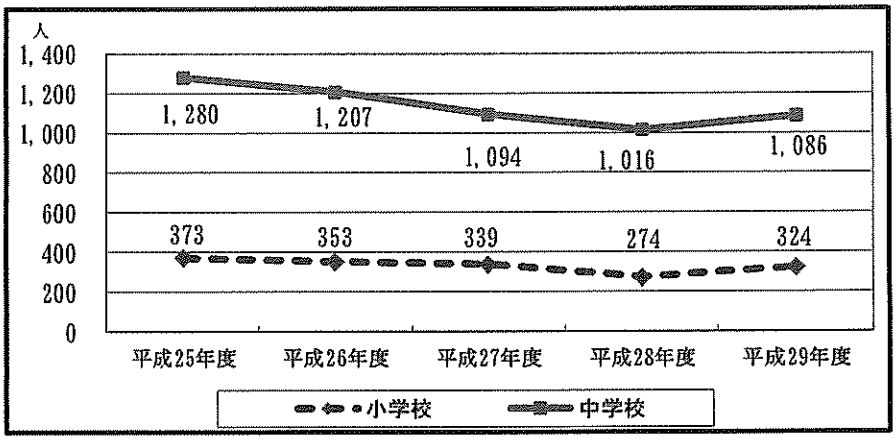
平成29年度　小学校・中学校における不登校児童生徒の状況（年間30日以上）

1　1,000人当たりの不登校児童生徒数の推移（国公私立小・中学校）

	小学校		中学校		小・中学校	
	奈良県	全国	奈良県	全国	奈良県	全国
平成25年度	5.0	3.6	30.8	26.9	14.3	11.7
平成26年度	4.8	3.9	29.5	27.6	13.7	12.1
平成27年度	4.7	4.2	27.4	28.3	12.8	12.6
平成28年度	3.9	4.7	25.9	30.1	11.7	13.5
平成29年度	4.6	5.4	28.4	32.5	13.0	14.7

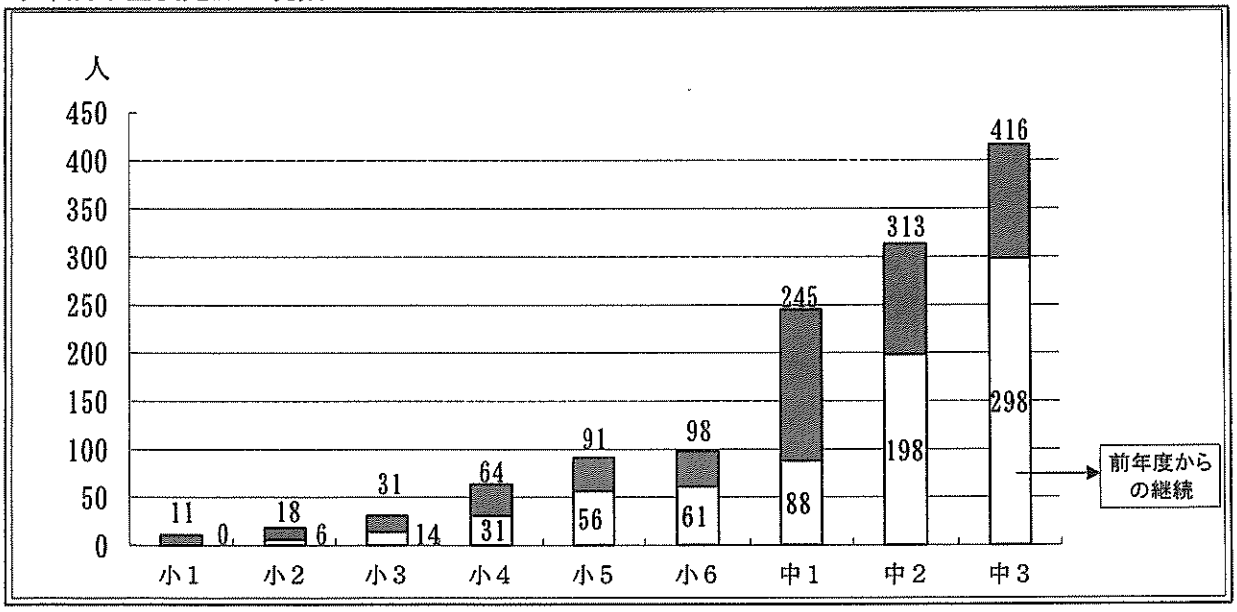
2　奈良県の国公私立小学校・中学校における不登校児童生徒数の推移

	小学校	中学校
平成25年度	373	1,280
平成26年度	353	1,207
平成27年度	339	1,094
平成28年度	274	1,016
平成29年度	324	1,086



3　奈良県の公立小学校・中学校における不登校児童生徒の状況等

(1) 学年別不登校児童生徒数



(2) 不登校の要因

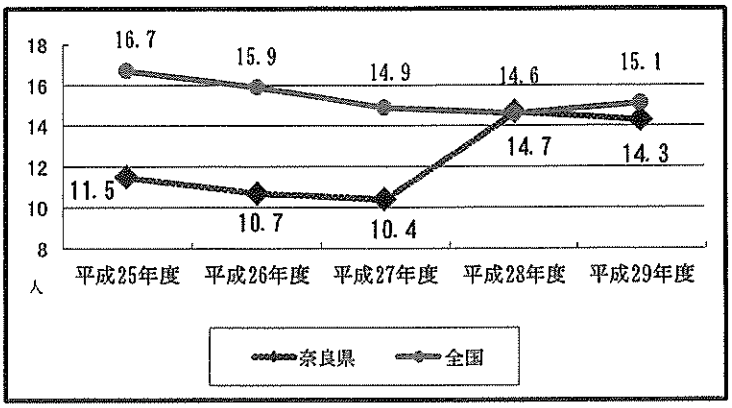
		小学校(人)	比率（%）	中学校（人）	比率（%）	合計（人）	比率（%）
学校に係る状況	いじめ	8	2.6	13	1.3	21	1.6
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	80	25.6	258	26.5	338	26.3
	教職員との関係をめぐる問題	18	5.8	14	1.4	32	2.5
	学業の不振	50	16.0	143	14.7	193	15.0
	進路にかかる不安	4	1.3	61	6.3	65	5.1
	クラブ活動、部活動等への不適応	0	0.0	36	3.7	36	2.8
	学校のきまり等をめぐる問題	6	1.9	28	2.9	34	2.6
	入学、転編入学、進級時の不適応	9	2.9	40	4.1	49	3.8
家庭に係る状況		151	48.2	263	27.0	414	32.2
該当なし		45	14.4	196	20.1	241	18.7
計		371		1,052		1,423	
不登校児童生徒数		313		974		1,287	

※　構成比は、各校種における不登校児童生徒数に対する割合を示す。
　　複数選択可、当てはまるものがない場合は回答しないことから構成比が100%とならない場合もある。

平成29年度　高等学校における不登校の状況

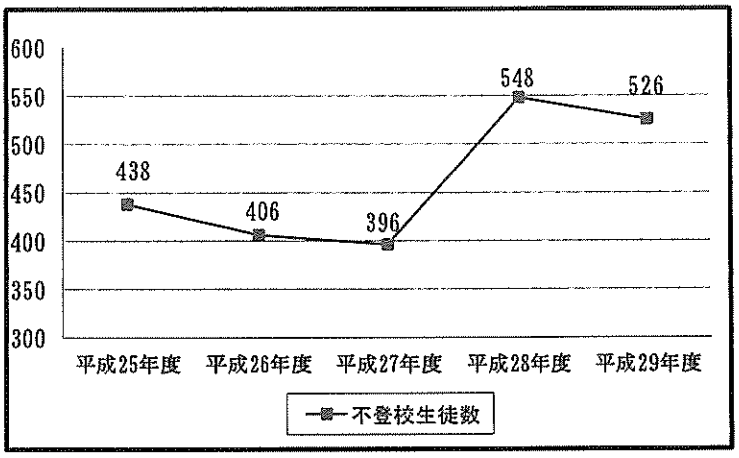
1　1,000人当たりの不登校生徒数の推移（国公私立高等学校）

年度	奈良県	全国
平成25年度	11.5	16.7
平成26年度	10.7	15.9
平成27年度	10.4	14.9
平成28年度	14.7	14.6
平成29年度	14.3	15.1



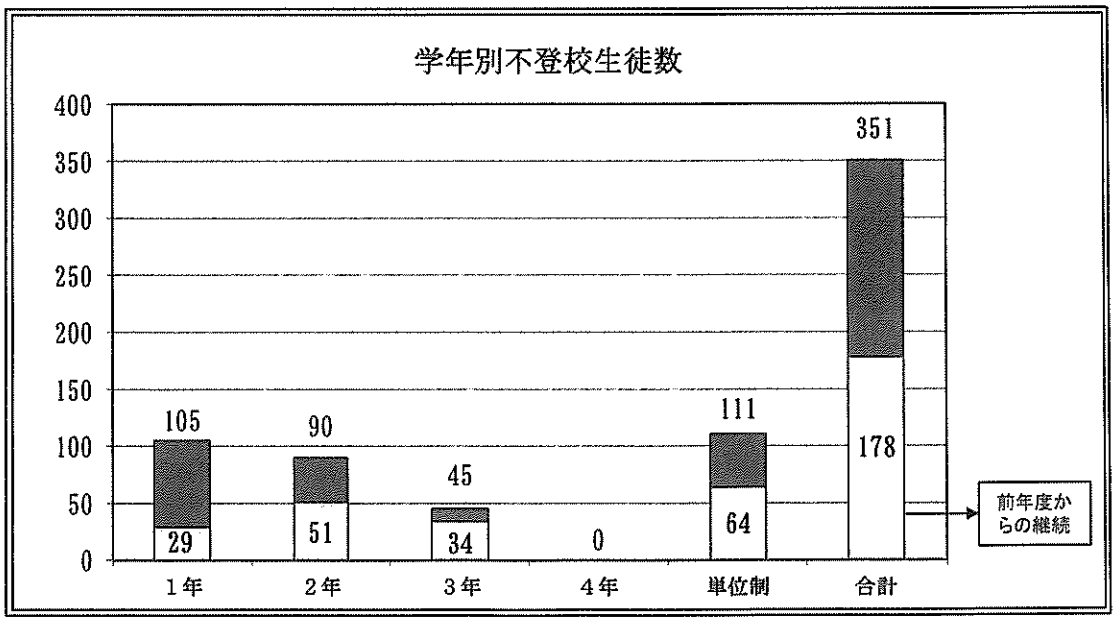
2　奈良県の国公私立高等学校における不登校生徒数の推移

年度	不登校生徒数
平成25年度	438
平成26年度	406
平成27年度	396
平成28年度	548
平成29年度	526



3　奈良県の公立高等学校における不登校生徒の状況等

(1) 学年別不登校生徒数



(2) 不登校の要因（全日制）

		平成29年度		平成28年度	
		生徒数(人)	比率（%）	生徒数(人)	比率（%）
学校に係る状況	いじめ	1	0.4	1	0.4
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	55	19.9	49	19.1
	教職員との関係をめぐる問題	1	0.4	1	0.4
	学業の不振	34	12.3	50	19.5
	進路にかかる不安	36	13.0	41	16.0
	クラブ活動、部活動等への不適応	3	1.1	3	1.2
	学校のきまり等をめぐる問題	6	2.2	7	2.7
	入学、転編入学、進級時の不適応	56	20.3	43	16.8
家庭に係る状況		35	12.7	37	14.5
該当なし		67	24.3	57.0	22.3
計		294		289	
不登校生徒数		276		256	

※ 構成比は、各校種における不登校児童生徒数に対する割合を示す。
複数選択可、当てはまるものがない場合は回答しないことから構成比が100%とならない場合もある。

平成29年度 県立高等学校における中途退学の状況(全日制)

1 中途退学者数(学年別・事由別)

事由		学業不振	学校生活・学業不適応					進路変更	問題行動	小計	病気・けが	経済的理由	家庭事情	その他	小計	合計
			もともと高校生活に熱意がない	授業に興味がわかない	人間関係がうまく保てない	学校の雰囲気があわない	その他									
学年	1年	1	24	10	7	15	1	69	0	127	0	0	0	0	0	127
	2年	0	2	10	4	6	0	42	0	64	3	0	0	0	3	67
	3年	0	0	0	1	0	1	13	1	16	1	0	0	0	1	17
事由別中退者数		1	81					124	1	207	4	0	0	0	4	211
事由別率		0.5%	38.4%					58.8%	0.5%	98.1%	1.9%	0.0%	0.0%	0.0%	1.9%	100.0%

2 事由別中途退学者数の推移

事由 / 年度	学業不振	学校生活・学業不適応					進路変更	問題行動	小計	病気・けが	経済的理由	家庭事情	その他	小計	合計	退学率(%)	学年別			生徒総数
		もともと高校生活に熱意がない	授業に興味がわかない	人間関係がうまく保てない	学校の雰囲気があわない	その他											1年	2年	3年	
H25	7	22	26	8	16	14	196	9	298	15	4	10	3	32	330	1.35	230	74	26	24,432
		86															69.7%	22.4%	7.9%	
H26	12	17	41	7	21	14	114	13	239	19	5	8	1	33	272	1.12	183	68	21	24,248
		100															67.3%	25.0%	7.7%	
H27	0	29	64	5	14	4	99	2	217	13	0	5	1	19	236	0.98	153	59	24	24,161
		116															64.8%	25.0%	10.2%	
H28	1	23	40	14	15	2	151	0	246	8	1	4	1	14	260	1.09	153	85	20	23,908
		94															58.8%	32.7%	7.7%	
H29	1	26	20	12	21	2	124	1	207	4	0	0	0	4	211	0.90	127	67	17	23,465
		81															60.2%	31.8%	8.1%	

※ 生徒数は、学校基本調査(平成29年5月1日)による。

〔状況〕

1 暴力行為

－対教師暴力、生徒間暴力、器物損壊、対人暴力の４形態－

〈国公私立小学校・中学校・高等学校における1,000人当たりの発生件数〉

平成29年度の本県の国公私立小・中・高等学校合わせた児童生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数は、2.9件（前年度比0.4ﾎﾟｲﾝﾄ増）であった。なお、全国の国公私立小・中・高等学校合わせた児童生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数は、4.8件（前年度比0.4ﾎﾟｲﾝﾄ増）であった。

〈公立小学校・中学校・高等学校における暴力行為発生件数〉

平成29年度の本県の公立小・中・高等学校合わせた暴力行為の発生件数は、307件（前年度比46件増）であった。

〈公立小学校・中学校・高等学校における校種別暴力行為発生件数〉

小学校では121件（前年度比36件増）で、児童1,000人当たりの暴力行為の発生件数は、1.8件（前年度比0.5ﾎﾟｲﾝﾄ増）であった。

中学校では137件（前年度比11件増）で、生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数は、4.2件（前年度比0.5ﾎﾟｲﾝﾄ増）であった。

高等学校においては49件（前年度比１件減）で、生徒1,000人当たりの暴力行為の発生件数は、1.9件（前年度と同じ）であった。

2 いじめ

〈国公私立小学校・中学校・高等学校等における1,000人当たりのいじめの認知件数〉

平成29年度の本県の国公私立小・中・高・特別支援学を校合わせた児童生徒1,000人当たりのいじめの認知件数は、37.5件（前年度比21.2ﾎﾟｲﾝﾄ増）であった。なお、全国の国公私立小・中・高等学校合わせた児童生徒1,000人当たりのいじめの認知件数は、30.9件（前年度比7.1ﾎﾟｲﾝﾄ増）であった。

〈国公私立小学校・中学校・高等学校におけるいじめの認知件数〉

平成29年度の本県の国公私立小・中・高等学校におけるいじめの認知件数は、5,666件（前年度比3,179件増）であった。校種別に見ると、小学校では4,534件（前年度比2,848件増）、中学校では826件（前年度比211件増）、高等学校では306件（前年度比120件増）であった。

〈公立小学校・中学校・高等学校におけるいじめの態様〉

小 学 校　①「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」59.9%
　　②「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」21.3%
　　③「仲間はずれ、集団による無視をされる」12.5%

中 学 校　①「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」71.9%
　　②「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」14.9%
　　③「仲間はずれ、集団による無視をされる」11.5%

高等学校　①「冷やかしやからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる」67.3%
②「パソコンや携帯電話等で、誹謗中傷や嫌なことをされる」　15.3%
③「軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする」11.3%

〈公立小学校・中学校・高等学校におけるいじめの解消状況〉

平成29年度の本県の公立小・中・高等学校におけるいじめの解消状況は、小学校では91.2%（前年度比3.9ﾎﾟｲﾝﾄ増）、中学校では84.4%（前年度比4.2ﾎﾟｲﾝﾄ減）、高等学校では83.9%（前年度比1.2ﾎﾟｲﾝﾄ減）であった。

3　小学校・中学校における不登校

－30日以上欠席し、理由が経済的理由、病気等でないもの－

〈国公私立小学校・中学校における1,000人当たりの不登校児童生徒数〉

平成29年度の本県の国公私立小・中学校における1,000人当たりの不登校児童生徒数は、小学校が4.6人（前年度比0.7ﾎﾟｲﾝﾄ増）、中学校が28.4人（前年度比2.5ﾎﾟｲﾝﾄ増）、小・中学校合わせて13.0人（前年度比1.3ﾎﾟｲﾝﾄ増）であった。なお、全国の国公私立小・中学校における児童生徒1,000人当たりの不登校児童生徒数は14.7人（前年度比1.2ﾎﾟｲﾝﾄ増）であった。

〈国公私立小学校・中学校における不登校児童生徒数〉

本県の国公私立小・中学校における不登校児童生徒数は、小学校が324人（前年度比50人増）、中学校が1,086人（前年度比70人増）であった。

〈公立小学校・中学校における不登校児童生徒の前年度からの継続の状況〉

小学校では、不登校児童のうち53.7%が前年度からの継続であり、６年生が62.2%と最も高かった。

中学校では、不登校生徒のうち60.0%が前年度からの継続であり、学年が進むに従って増加し、３年生では71.6%が前年度からの継続である。

〈公立小学校・中学校における不登校になったきっかけと考えられる状況〉

※　区分のうち「該当なし」は除く

小学校　①「家庭に係る状況」　48.2%
②「いじめを除く友人関係をめぐる問題」　25.6%
③「学業の不振」　16.0%

中学校　①「家庭に係る状況」　27.0%
②「いじめを除く友人関係をめぐる問題」　26.5%
③「学業の不振」　14.7%

4 高等学校における不登校

－30日以上欠席し、理由が経済的理由、病気等でないもの－

〈国公私立高等学校における不登校生徒数等〉

平成29年度の本県の国公私立高等学校（全日制・定時制課程）における不登校生徒数は526人（前年度比22人減）であった。

〈公立高等学校における不登校生徒数等〉

平成29年度の本県の公立高等学校（全日制・定時制課程）における不登校生徒数は351人（前年度比３人減）であった。

〈公立高等学校における不登校になったきっかけと考えられる状況（全日制）〉

※　区分のうち「該当なし」は除く

①「入学、転編入学、進級時の不適応」　20.3％
②「いじめを除く友人関係をめぐる問題」　19.9％
③「進路にかかる不安」　13.0％

5 高等学校における中途退学

〈県立高等学校における中途退学者数〉

平成29年度の県立高等学校（全日制）における中途退学者は211人（前年度比49人減）であり、中途退学率0.90％（前年度比0.19ﾎﾟｲﾝﾄ減）であった。学年別の割合では、１年生が60.2％と最も高く、全中途退学者数の半数以上を占めた。

〈県立高等学校における中途退学の主な理由（全日制）〉

①「進路変更」　58.8％（前年度58.1％）
②「学校生活・学業不適応」　38.4％（前年度36.2％）
③「病気・けが」　1.9％（前年度 3.1％）